

マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931
E-mail:kyuunan7-j7vj2@kaiho.mlit.go.jp

第49号(平成21年8月)

水上オートバイの運行に注意

7月23日午後3時30分頃、福岡県芦屋海水浴場沖合において、水上オートバイAとBにそれぞれ1名が乗船し、AとBはの船間距離約3mで並走して波乗り航走を行っていましたが、お互いの動静を確認しないまま、右側にいたAが左転、左側にいたBが右転しようとお互いにハンドルを切ったため、Aの左舷船尾とBの船首が衝突し、Aの乗船者が骨盤骨折で全治1ヶ月の負傷を負うとともに、双方の水上オートバイが損傷しました。

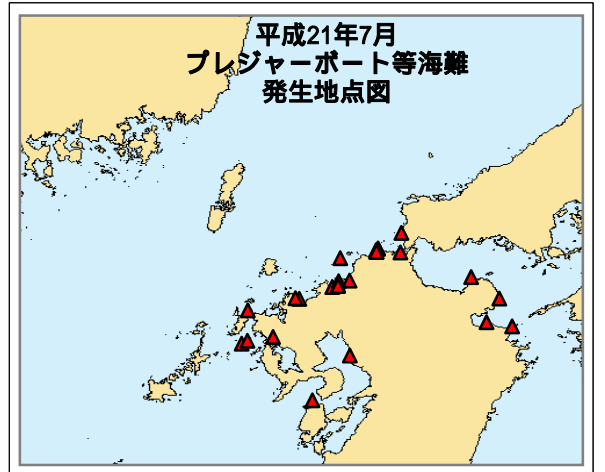
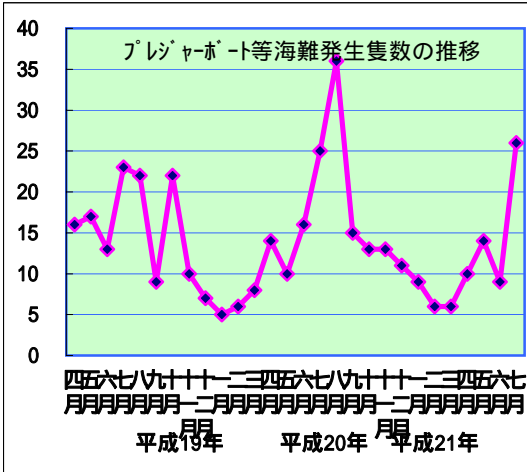
～事故からの教訓～

水上オートバイは、自船のエンジン音や波しぶきにより他船の接近や動静に気付きにくい。

船間距離は十分に取る。
状況に合わせ、安全な速力で遊走する。
進路変更時には後方及び周囲を確認する。



平成21年7月 プレジャーボート等 海難発生隻数	
合計 26隻	
衝突	3
乗揚	2
転覆	5
浸水	1
推進器障害	0
舵障害	0
機関故障	7
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航障害	7
安全障害	1
その他	0



花火大会の見学船は注意して運航を！



8月、9月には全国各地で花火大会が開催されます。船で見学される方もいると思いますが、例年、見学船の衝突や乗揚げ等の重大海難が発生しています。夜間においては周囲の景色が見えず、見張りや自船の位置を確認しないまま航行すれば、前方の浅瀬や、防波堤を発見できず、速力を落とすことなくそのまま乗揚げたり衝突したりして、乗船者の人命にもかかわる重大な海難事故につながる恐れがあります。すでに七管区内でも、船位を確認することなく航行したために浅瀬に乗揚げたプレジャーボートの海難が発生しています。夜間航行の際は、航行予定海域を海図などにより事前に把握し、また、コース上の目標や障害物についても事前にチェックするとともに、航行中は速力を減じたり、見張りを増やすなど自船の船位を把握し、安全航行に心掛け、海難を起こさないように十分注意して下さい。

波の浅海効果

砂浜の海岸に立って海をながめると、ちょっと不思議なことが起こっています。波は、海岸や風向きはさまざまでも、決まって海岸線に平行に押し寄せています。それはなぜでしょう？

目の錯覚

海岸で波が反射して凹凸がそろうから

波の進む速さが水深によって変わるから



答え

沖合から海岸付近に伝わってきた波は、浅いところほどゆっくり進む性質があります。海岸に対して斜めに入ってきた波も岸に近く水深が浅い所ではゆっくり、深いところでは、速く進みます。したがって、浅い部分では波が足踏みする一方で、深い部分ではどんどん進んで追いついてきます。その結果、波打ち際に到達したときには、沖から岸に向かって、海岸に平行になるようにそろって打ち寄せることとなります。(急深で切り立った崖では、波が海岸と平行にならないまま、端から次々と岸をなめるように打ち付けることもあります。)

海岸や河口、港の入口では大波に注意して下さい

沖合いから寄せてくる波は、沿岸部の水深変化、海岸の地形、海岸構造物、狭水道や河口流の影響を受けて、磯波や三角波などのように波が高くなったり、波頭が砕けたりして、船舶にとって危険な波に変化することがあります。特に**プレジャーボートなどの小型船**は、転覆事故のおそれがありますので、この海域特性にご注意下さい。

浅海効果の1つである**屈折**では、波の峰が海底地形に並行になろうとし、岬の先端のように突き出た部分では波が収束して、波高が増大し、砕け波(白波や磯波)も激しくなります。

防波堤や海底から切り立った岩壁に波が当たると波がはね返され、向きを変えて別の方向に進むことがあります。この現象を**反射**といいます。その際、入射波と反射波が重なり合い、2倍近い波高が出現することがあります。また、防波堤などの裏側にも波は回り込んできます。これを**回折**といいます。

岩場や防波堤での釣りでも、大波がやってくることを常に念頭に置くことが必要です。釣り中に大波にさらわれる事例は数多くあります。統計的には100波に1波は 有義波高(気象庁予報の波の高さで、観測した波高の高い順から全波数の1/3についての平均波高)の1.6倍、1000波に1波は有義波高の2倍近い高い波が出現する可能性があります。例えば、周期が6秒で有義波高が2mの波の状況下では、6000秒(約100分)に1回は波高が4mの波が現れることとなります。岩場や堤防での釣りや作業では、この点を理解し、地面が濡れている場所では波をかぶる可能性があることを意識しておく必要があります。

海の情報交差点(<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN7/top.htm>)では、**河口流**や**離岸流**などについても情報提供しています。

